



6年 全国学力・学習状況調査

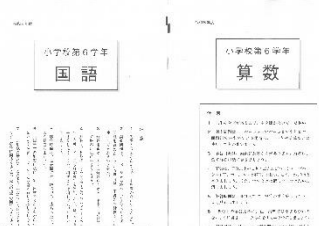
4月18日(木)、6年生(と中学3年生)を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。平成19年(2007年)から続く調査で、午前中、6年生は緊張感の中、「国語」「算数」に集中して取り組んでいました(アンケートは19日に実施)。

調査問題の傾向としては、例えば国語なら「習った漢字を正しく書く」だけでなく、「中心となる文を見つけて要約し」たり、「話し手の考えと比べながら自分の考えをまとめ」たりする問題です。

算数なら「図形の意味や性質を答える」だけでなく、「面積の大小を見つけその理由を答え」たり、「日常生活の場面を想定し、求めた答えを条件づけ」したりする問題です。コミュニケーションで大切な、自分の意見を整理して分かりやすく相手に伝えられるスキルを問われる問題が特徴です。

本校でも、漢字や計算などの基礎基本はもちろん、自分の考えを書いたり、その理由を説明したり、学んだことをその日の内に振り返ったりする活動を授業で取り入れることで、相手を意識させながら、「次につながる」学力の育成に努めています。

また、研究主題を『どの子も主体的に学ぶ授業』とし、授業研究に取り組んでいきます。



5・6年 すくすくウォッチ

同日、5・6年生を対象にすくすくウォッチが行われました。令和3年度から、府の公立小学校5・6年生を対象に、読解力や情報活用能力の向上を目的にした独自の学力調査です。学校や日常生活についてのアンケートも行い、通常のテストでは測れない子どもたちの個性を発見して伸ばすのがねらいです。

5年生は、①国②算③理④わくわく問題(教科横断型問題)⑤児童アンケート、6年生は、全国学力等調査の後、わくわく問題と理科、アンケートに取り組みました。

『おつかれさまでした!』

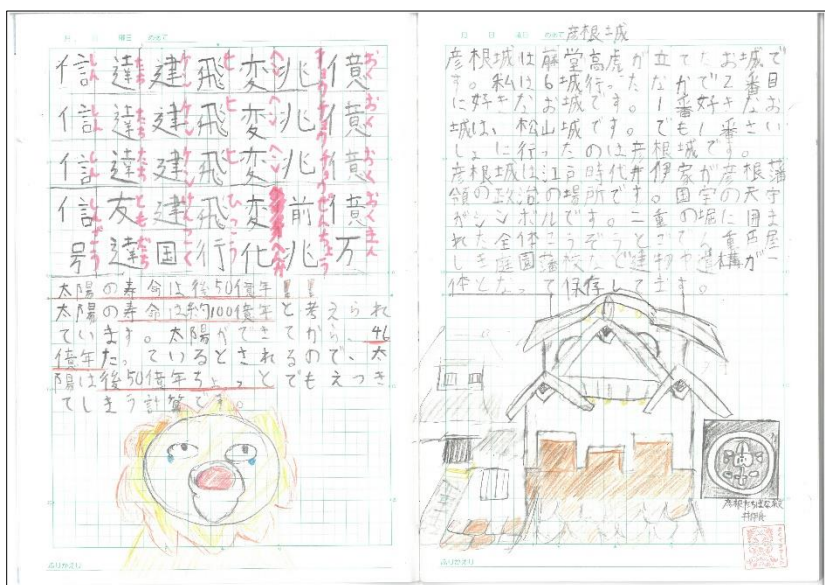
「個人バーコード」をもとに、小5が中3になるまでのテスト結果から「その子個人」の学力の変化を把握します。また、6年生時は、全国学力等調査の「個人番号」をもとに、すくすくウォッチと関連付けます。

著しい社会の変化の中で、小中学校に求められるのは、流行に流されるのではなく、むしろ、学びの基盤を固めることであると考えられます。

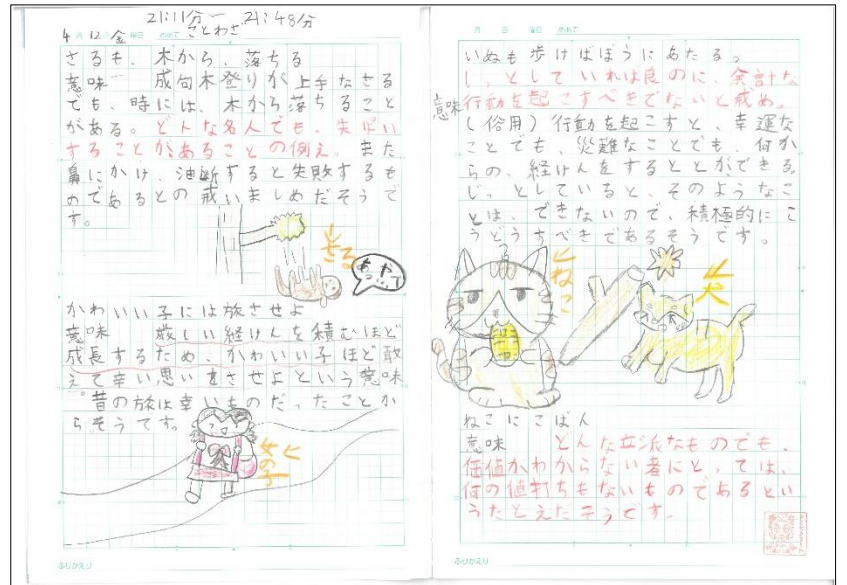
本校では、基礎基本の定着を要に、**<見えない力(粘り強さや好奇心)>を育むことを目的**に、興味関心を高めたり学びの幅を広げたりするため、「自学ノート」の取組を大切にしています。



学習のようす(自学ノート、教科ノートなど)



4年一組



児童のようす

1年生は、小学校はじめての給食の時間です。

